

『平家物語、その滅びの美学』(全3回)

作家・林望氏が手がける現代語訳『謹訳 平家物語』を巡って、今回は後半を形成する「滅びていく平家」に光をあてます。滅亡と死、その圧倒的な迫力と、亡んでいく平家の公達の「もののあはれ」を、実際に即して読みながら、この物語が一頭地を抜いた軍記作品であることを検証する3回シリーズです。

■第1回 9月26日(月) 18:30~20:00 《申込受付中》



『滅びの美学ともののあはれ』

木曾義仲の拳兵、頼朝の拳兵によって、平家の天下が揺るぎ始める一方、独裁者清盛も、人格者重盛も亡きあとの平家一門が、懦弱な総大将宗盛のもと、音を立てるようにして瓦解してゆく、その有様を仔細に読みながら、しかし、そのなかで、この物語がどれほど「滅んでゆく者」に対して、深い文学性を以て語り続けていくか、その一人一人のヒューマニティーを検証してみたい。

講師：林 望（作家・国文学者）

■第2回 10月24日(月) 18:30~20:00 《8月25日申込受付開始》

『平家物語と能』 ゲスト：坂 真太郎（観世流能楽師）

日本を代表する伝統芸能の能楽に、もっとも大きな影響を与えたのは『平家物語』であった。現行の能のなかから、平家物語に取材するものをいくつか選んで、能作者がどのようにこの物語を扱ったか、世阿弥の考えたところはどうであったか、などを含めて、実際の能役者である坂真太郎師をゲストに迎えて、『謹訳 平家物語』の一味ちがった朗読なども含めて語り合う。



■第3回 11月28日(月) 18:30~20:00 《9月25日申込受付開始》

『平家物語の男たち』 ゲスト：嵐山光三郎（作家）

平家物語に描かれる、数多くの男たちの、その個性、その魅力などを巡って、あらためて考えてみたい。今回は、小説『清盛と西行』などの作品で、この世界について独自の光を当てる、作家の嵐山光三郎氏を招いて、縦横無尽、自由自在というつもりで、言いたい放題丁々発止の談義を戦わせようかと思っている。



開催概要

- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ○ 定員：各200名(申込順)
- 参加費：各500円(千代田区民および学生は無料)
※千代田区民の方は住所が確認できるもの、学生の方は学生証をお持ちください。
- 申込方法：来館(1階受付)、電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp)いずれかにて
① 講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。
- 主催：公益財団法人上廣倫理財団 ○ 共催：千代田区立日比谷図書文化館